花園だより

令和8年3月9日
京都市立花園小学校
校長　太田　隆司

心豊かに　たくましく　自ら学び　自ら律する　花園の子

E-mail:hanazono-s@edu.city.kyoto.jp　TEL:841-6900　FAX:841-6904

子どもを共に育む 京都市民憲章
京都はぐくみ憲章
社会のあらゆる場で実践し、行動の輪を広げましょう！

■令和7年度　後期学校評価の結果について

早春の候、皆様におかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。平素から本校教育活動にご理解・ご協力いただき、誠にありがとうございます。
１２月に実施致しました「学校評価アンケート（後期）」のご協力、ありがとうございました。本校では毎年、学校と家庭が双方向の関係性を構築し、それぞれの立場から子どもの豊かな学びと育ちを実現するために、年に２回、保護者の方々へのアンケートにご協力いただいています。
本お便りでは、前回実施から半年経った子どもたちの様子について、ご回答いただいた結果を基にその変容等について考察します。
成果と課題を検討し、それらを踏まえたうえで来年度の教育活動への改善等へつなげていきたいと考えております。今後ともご理解・ご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

■アンケート集計結果（数字は％、質問文は児童用のアンケートのもの）

「確かな学力」

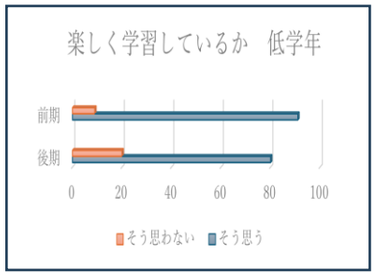
	低学年児童	高学年児童	保護者	低学年児童	高学年児童	保護者	低学年児童	高学年児童	保護者	低学年児童	高学年児童	保護者
	そう思う			大体そう思う			あまりそう思わない			そう思わない		
学校や家庭で、楽しく学習している。	51	45	43	29	40	47	13	13	9	7	2	1
授業がよくわかる。	51	38	24	36	58	63	7	4	12	16	0	1
授業中，先生や友達の話を最後までしっかり聞いている。	55	32	22	38	64	57	1	4	20	6	0	1
めあてや目標をもって学習に取り組んでいる。	39	45	20	39	39	55	19	17	21	4	0	4
授業中，自分から進んで発表している。	50	36	24	23	23	40	16	26	30	11	15	6
家庭学習や宿題を自分から進んでしている。	40	60	24	46	32	46	9	6	26	5	2	4
本をよく読んでいる。	44	34	28	39	19	18	8	30	41	8	17	13
忘れ物なく自分で学習の準備ができている。	54	21	31	24	64	43	18	15	20	4	0	6

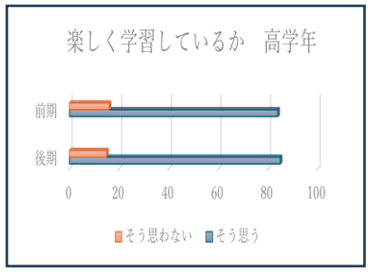
この項目は、本校教育活動における主に**基礎的・基本的な知識・技能の習得および、探究活動を通した主体的・対話的で深い学びの実現に関わる内容**となります。

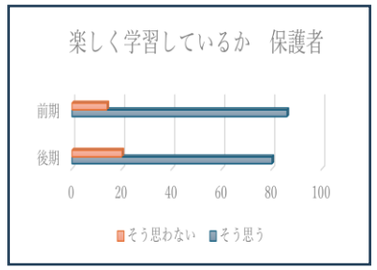
解答項目の内、**課題的な内容を中心に**以下の３項目を抽出し、考察します。

①　『学校や家庭で楽しく学習している。』

『学校や家庭で楽しく学習している。』の項目では、「そう思う」「大体そう思う」を合計した肯定的な回答の割合が、低学年・高学年ともに８割以上、保護者に関しては９割以上の回答となりました。



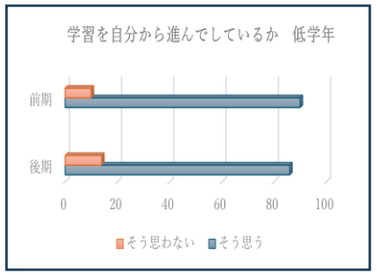


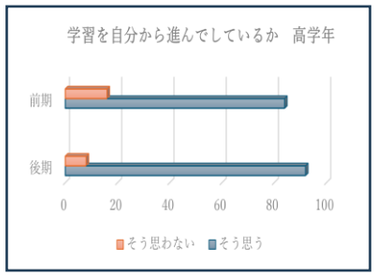


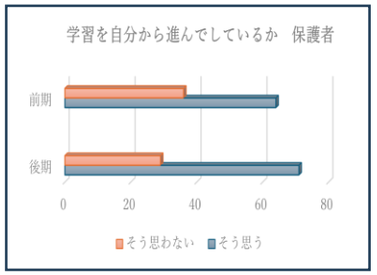
前期と後期の変化をみると、『楽しく学習している』に関しては、低学年児童の肯定的な回答の割合が減ってきています。前期と比較して後期は肯定的回答が 11 ポイント低下しました。後期は学習内容が難しくなることや、行事後の疲れなどが重なり、学習に楽しさを感じにくくなる時期であります。また、年度当初の新鮮さが薄れ、意欲面での落ち着きが見られることも一因として考えられます。今後は、つまずきやすい時期に合わせた学習支援や、家庭学習の意欲を高める取組の充実を図っていきたいです。

②　『家庭学習や宿題を自分から進んでしている。』

「家庭学習や宿題を自分から進んでしている。」の項目では、児童の肯定的な回答が低学年児童に関しては８割以上、高学年児童に関しては９割以上、保護者に関しては８割以上の回答となりました。





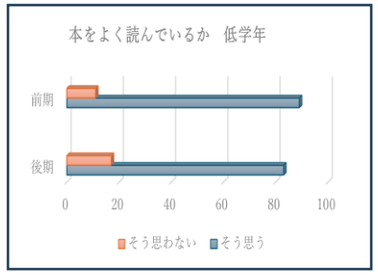


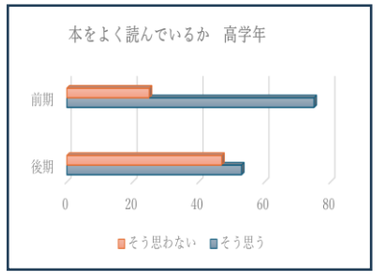
また、『自分から進んでしている』に関しては、低学年の肯定的な回答の割合が減っています。「令和７年度　学校教育の重点」において「自ら学ぶ力」の育成について触れられています。その中でも『日々の授業と家庭学習の連動を通して、自学自習の習慣化を図る』については、与えられた課題に取り組むだけでなく、ICT や自主学習ノートを活用して、自らが課題を選択し、予習・復習に取り組むなどの学習計画を立てて実行していくことが大切であると言われています。また、子どもたちは学校では自分から学ぶ姿が増えてきています。一方で、ご家庭では「声かけが必要」と感じられる場面もあるようです。子ども自身が学習を選び、やり切る体験を増やすために、本校の帯時間、チャレンジタイムの活用などを通して、選べる課題と短時間の自主学習の経験を取り入れる必要があると考えられます。ご家庭では、（1）やることを子どもに選ばせる（2）短時間でもやり切った点をまず認め

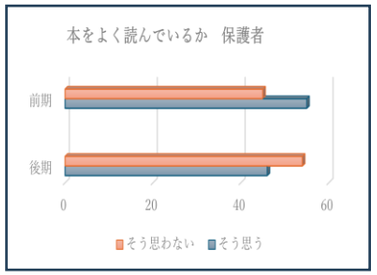
る（3）次の一歩を一緒に考える、の３点をお願い致します。

③ 「本を読んでいる。」

肯定的な回答の割合が、低学年の割合が 8 割以上、高学年年児童に関しては**５割以上**という結果になりました。高学年の児童の肯定的な回答をしている割合が減ってきています。高学年の肯定的な意見が減っているのは「習い事やスポーツ活動で忙しくなり、ゆっくり読む時間がない」という児童が増えているようです。

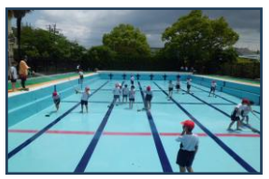






高学年では「本を読んでいる」と回答した児童が、前期の 75%から後期は 53%へと大きく低下しました。高学年は学習負荷や学校行事が増える時期であり、読書習慣が後回しになりやすくなります。また、興味の中心が動画・ゲームなどに移ることで読書時間が減少した可能性もあります。さらに、高学年になるほど読書支援（読み聞かせ・図書館利用の仕掛け）が減少し、意識的に読む機会がつくられにくいことも要因として考えられます。今後は、高学年の興味に合う読書環境づくりや、学校全体での読書活動の継続的な支援が必要であると考えられます。

本校では年３回の読書週間や、親子読書、図書委員会での取組、ゲストティーチャーによる読み聞かせ、１００冊読書、など読書推進への取組を行っています。素敵な本との出会い、読書の楽しさに触れる機会を通して、子どもたちにより本に親しんでいってもらいたいと考えています。今回の課題を令和８年度につなげていきます。



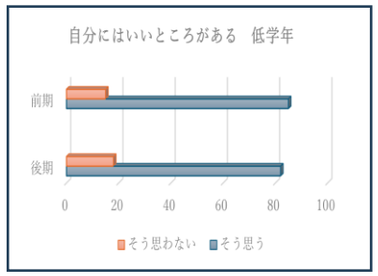
「豊かな心」

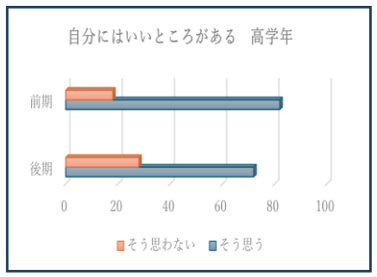
	低学年児童 高学年児童	保護者	低学年児童 高学年児童	保護者	低学年児童 高学年児童	保護者	低学年児童 高学年児童	保護者
	そう思う		大体そう思う		あまりそう思わない		そう思わない	
自分から進んであいさつができている。	51 56	45	33 33	36	7 8	15	9 3	4
こまったことがあれば，周りの人に相談している。	56 36	27	27 17	54	13 30	18	4 17	1
家で学校であったできごとをお家の人に話している。	59 43	31	23 40	59	11 11	10	7 6	0
自分には良いところがあると思う。	53 32	24	29 40	58	9 19	15	9 9	3
難しいと思うことにも失敗をおそれず挑戦している。	50 23	24	39 53	52	7 21	22	4 3	2
学級や学年の仲間と学校で仲良く過ごしている。	71 55	50	23 39	48	1 4	2	4 2	0
係や掃除・給食当番の仕事に責任をもって取り組んでいる。	74 60	22	16 36	48	4 4	26	6 0	4
学校の物や勉強道具を大切にしている。	61 60	18	28 36	54	7 4	20	4 0	8

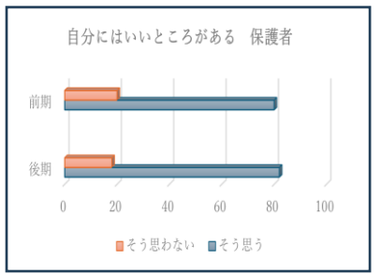
この項目は、本校教育活動における、主に道徳教育の充実、規範意識の育成、支え合い、高め合う集団づくりの推進と絆づくりに関わる内容となります。解答項目の内、**課題的な内容を中心に**以下の２項目を抽出し、考察します。

① 「自分には良いところがあると思う。」

肯定的な回答の割合が、低学年児童・保護者が８割以上という結果になりました。前回と比較すると保護者は肯定的な意見が少し増えましたが、低学年・高学年ともにポイントが減るいという結果でした。





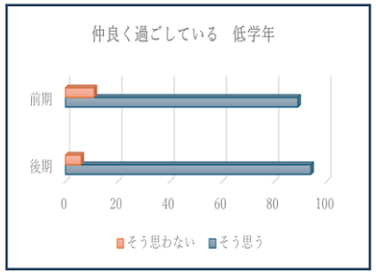


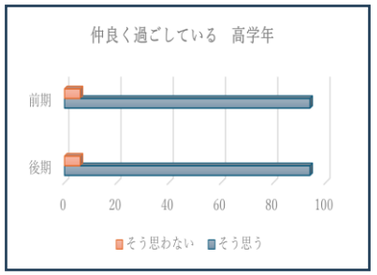
後期の学習内容の難化や行事・活動の増加により、児童が「できた」と感じる機会が少なくなっていることが要因として考えられます。また、友達関係による比較意識の強まりや、家庭と学校での見取りの差、読書量の低下なども影響しているのではないでしょうか。今後は、児童一人ひとりが努力

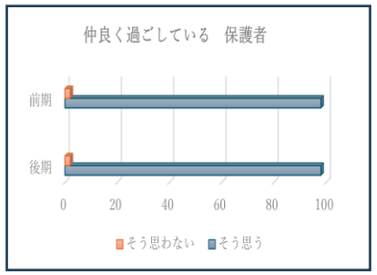
や成長を実感できる場面づくりを意識的に行い、成功体験を積み重ねる機会を増やす必要があると考えられます。

② 「学級や学年の仲間と学校で仲良く過ごしている。」

肯定的な回答の割合が、低学年・高学年児童・保護者とすべての対象において９割以上という高い結果になりました。







低学年で前期より５ポイントの上昇が見られました。学級内の人間関係が安定し、生活習慣や学級ルールが定着してきたことにより、安心して友達と関わることができていることが要因として考えられます。また、生活科や遊びを通した協働的な活動の充実や、困りを相談できる教職員とのつながりが、友達と楽しく過ごせる環境づくりに寄与しているとも言えます。学校全体として、いじめ・トラブル予防の意識も浸透し、より安心して生活できる環境が整ってきているようです。

しかしながら、人間関係に不安を感じている児童もいます。教職員で共通理解を図りながら、全ての児童に対して細やかな関わりをもつことを大切にしていきたいと思います。

「健やかな体」「地域」

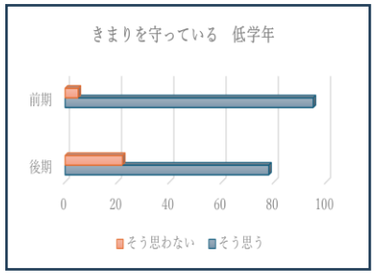
	低学年児童 高学年児童	保護者	低学年児童 高学年児童	保護者	低学年児童 高学年児童	保護者	低学年児童 高学年児童	保護者
	そう思う		大体そう思う		あまりそう思わない		そう思わない	
学校や放課後，安全に気を付けて行動している。	71 66	29	24 30	59	1 2	11	4 2	1
学校や家での決まりを守っている。	50 36	17	32 51	61	14 13	18	4 0	4
自分や友だちの心や体を大切にしている。	68 62	41	25 36	53	3 2	6	4 0	0

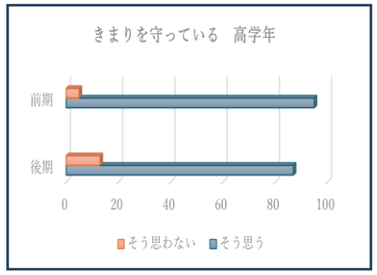
	低学年児童 高学年児童	保護者	低学年児童 高学年児童	保護者	低学年児童 高学年児童	保護者	低学年児童 高学年児童	保護者
	そう思う		大体そう思う		あまりそう思わない		そう思わない	
花園小学校の地域のことが好きだ。	70 64	52	22 19	46	4 9	2	4 8	0

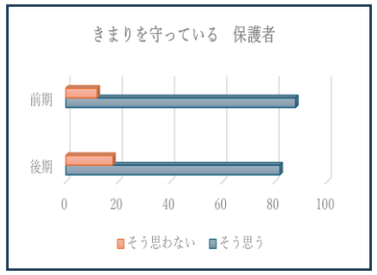
この項目は、保健教育・安全教育の充実、および地域への親しみや愛情に関わる内容となります。

① 「学校や家での決まりを守っている。」

あまりそう思わない・そう思わないと否定的な回答が、どの対象においても増加するという結果でした。







後期の生活リズムの乱れや学習・行事の多忙感により、集中力や自制心が低下しやすくなることが背景にあると考えられます。また、学級関係が固定化される時期であり、小さなトラブルや注意場面が増えることで、児童自身や保護者が“守れていない”と感じる場面が増加した可能性もあります。さらに、端末利用など新しいルールの理解不足も影響しているのではないでしょうか。読書・集中の面で、再度声かけを徹底して行い、自己調整力の育成を図りたいです。自己調整力の向上は「きまりを守る」行動に直結します。SNS やゲームに偏りすぎないよう、家庭とも連携を図りたいです。

自由記述欄にもご意見をいただきありがとうございました。

（紙面の都合上、一部ご紹介させていただきます。文章は一部に加筆修正しています）

〇学校が楽しいと自分から話してくれることもあり、とても充実した時間が過ごせているようです。行事にも参加したいと思っていますが、仕事の都合もありますので、年度初めに年間行事があるとありがたいです。また、持ち物のお知らせは、箇条書きで書いてくださると目が通りやすいです。

〇担任の先生が子どもに対してしっかり向かい合ってくださっているのでうれしい限りです。

〇親の声かけをもっとポジティブなものにしていき、本人に自信をつけることを考えていきたいです。環境づくりの大切さを痛感しており、そちらも心掛けたいです。

〇本人の頑張りはよく伝わっているので、キャパ以上のことを無理させないように、でも、本人のチャレンジは応援できるように、プラスに働くような言動ができるよう心掛けたいと思います。

〇運動会の音楽のボリュームを上げてほしいです。

以上、後期学校評価について、各項目の分析を行いました。
来年度の学校評価アンケート（前期）もご協力よろしくお願いいたします。